

平成 29 年度須原小学校の教育【グランドデザイン】

魚沼市の学校教育

1 温かい学級づくり

【達成目標】 hyper-Q-U の 2 回目の調査で、80%以上の学校を学級型で「親和的なまとまりのある学級集団」にする。

【具体的な取組】 ①全児童ヘリダーとフォロワーを体験させる。 ②児童の「自律性」を育てる支援を行う。

③「温かい学級づくり自校化プラン」をR-PDCAサイクルで着実に実践する。

2 学力向上

【達成目標】 アンダーアチーバーの出現率を 16%（平均値）以下にする。

【具体的な取組】 ①「全員を連れていく（日々の）授業」を積み重ねる。 ②2 学期の授業と行事のバランスを意識し、学習意欲を維持・向上させる。

③家庭学習を自律的に進めるため、計画を立てる時間を設定する。

3 不登校出現率の低下

【達成目標】 新たな不登校を生まない。

【具体的な取組】 ①温かい学級の中で、「居場所づくり」と「絆づくり」を実現する。②Q-U「学校生活不満足群・要支援群」や「前年度欠席 10 日以上」等の児童を把握すると共に、心配な兆候が見られる場合はケース会議を開催してチームで初期対応を確実にを行う。

安全で安心して
学べる学校

いきいきとした
学び合いのある学校

目的をもって学び続ける子

温かい人間関係を築く子

進んで体づくりをする子

教育目標
かしこく なおく たくましく
重点目標

自分を表現する中で、互いを信頼し合い、
主体的に学習する活力ある子どもの育成

家庭・地域とともに
つくる教育の充実

共に学び高め合う
職員研修の充実

【目標とする成果】

- ①web 配信集計システムで、60回以上(4 学級×2 教科×9 回) 県平均を上回る。
- ②Q-U 調査の学習意欲尺度で、全国平均を上回る。

学校の取組

- ①全学級担任が 1 回以上授業公開を行う。
- ②担任も一緒に読書する。
・担任が朝読書等の時間を利用し、ブックトークをして、本を紹介する(年回 10 回以上)
- ・2 週間に 1 回は全員で図書室に行き、本を借りて読む時間を確保する。
- ③実践者の実践を校内の全職員に広める。
・宿題・自学ノート展を行う。(学期に 1 回、各学級 3 冊を展示する。)
- ④須原小地域教育プログラムを実施する。
・見直し(8 月)、年間プログラムの修正(年度末)

家庭の取組

- メディア宣言を各家庭で実践できるように、家庭での学習環境を整える。

【目標とする成果】

- ・Q-U 調査において、学級生活満足群の出現率を 75%以上にする。

学校の取組

- ①全校なかよしスキルタイムを年間 10 回実施する。
- ②集団成立期に適応したリーダーおよびフォロワー育成ができるように、温かい学級づくり研修を年間 2 回実施する。
- ③Q-U 調査をもとに全職員で結果分析を学期 1 回以上行い、各学級の今後の対応策について検討し、全職員で対応する。
- ④児童個々の問題解決のために、Q-U 調査後に児童全員の教育相談の時間を年間 3 回確保する。

家庭の取組

- よいところを認め、進んでほめる。

【目標とする成果】

- ①児童アンケート「毎日進んで運動している」で肯定的な評価を 80%以上にする。
- ②GUC(元気アップチャレンジ)カードで A 評価を 80%以上にする。

学校の取組

- ①キッズファミリー種目を月に 1 度行う。
- ②児童朝会や体育館掲示などで運動、遊び紹介を年回 10 回以上行う。
- ③正しい生活習慣を身に付けさせるために、GUC 週間を設定し、学級で事前事後の指導を全学級で行う。
- ④「すはらっこ健康の約束」について、懇談器やたより等で保護者に伝える啓発活動を、年間 3 回以上実施する。

家庭の取組

- 早寝・早起き、朝ごはんに
取り組む。

魚 沼 市 温 かい 学 級 つ くら い 支 援 事 業

地域と学校の課題を共有し、解決に向けて地域とともに歩む学校を目指します！
学校支援地域本部事業

<家庭・保護者との連携・協力>

- 学習ボランティアとしての協力支援(教科学習、スキー、登山遠足など)
- 教育活動の周知と協力体制づくり(学校説明会、学級懇談会、たよりなど)

<地域との連携・協力>

- 学校応援団としての協力支援(クラブ、昔語り、読み聞かせ、ようこそ先輩など)
- 関係機関との連携(スクールガード、見守り隊、須原スキー場など)

<中学校区での交流・連携>

- 守門教育振興会を柱とした取組
中：授業参観、あぶるま塾、あいさつ運動など
幼：交流活動、体験入学、相互参観

こども園・小・中学校連携目標「守門に学び 守門を愛し ふるさと守門を誇りに思う子ども」